

国家公務員 という生き方

内閣官房内閣人事局(主査(任用担当))

北川 幸枝

KITAGAWA Sachie

平成18年10月 総務省採用
人事・恩給局総務課総括係
平成20年 1月 人事・恩給局総務課調整第一係
平成20年 4月 人事・恩給局労働係 兼 国際係
平成22年 4月 内閣府日本学術会議事務局参事官(国際業務担当)付
国際調査専門職付
平成24年 4月 人事・恩給局公務員高齢対策課企画第二係
平成25年10月 人事・恩給局公務員高齢対策課企画第二係長
平成26年 5月 内閣官房内閣人事局(高齢対策第二係長)
平成27年11月 育児休業
平成28年 4月 現職

『国家公務員とは?』

皆さんは国家公務員の仕事と問われた時、どのような業務が頭に浮かびますか。多くの方はお堅いイメージがまず思い浮かぶのではないのでしょうか。私が所属している内閣人事局は、2014年5月に公務員制度に関わる総務省の部局等が移管されて設置された新しい組織です。

内閣人事局は国家公務員に関する諸施策を所管しており、その中で私は進路や就職、その先のキャリアを考えたい学生に向けて国家公務員という仕事の魅力を伝える業務を担当しています。高校生や大学生を対象としたビジネスコンテスト、女性の働き方・生き方を考えるイベント、国家公務員になりきって政策を考えるイベント等、様々な広報イベントを開催しています。

イベントに参加した学生から好意的な反応があると大変嬉しく、業務を通じて、様々な人に出会えるのが魅力の一つだと思います。個人的には様々な人に国家公務員のPRをすることで、自分の仕事の魅力を再発見しています。

『私が働く軸』

私は社会に不可欠なものを支える、土台になるような仕事がしたいという思いを軸に、国家公務員を目指しました。総務省は、行政全体が一丸となってより良い方向に進むための舵取り役を担っています。過去の制度を見直し、時代に合った新しい制度を構築する等、積極的に挑戦しているのが特徴だと思います。入省以来、主に国家公務員の人事に関わる業務を担当していましたが、特に2008年から国家公務員の給与や勤務時間といった勤務条件を決定する仕組みの再検討に携わったことが思い出深いです。現在の公務の在り方は、今まさに過渡期とも言える時期かもしれません。正解のない課題に取り組むことにやりがいと楽しさを覚えました。毎日のように行った局内幹部との方針協議では、当時は係員であった私にも説明する機会を与えてもらい、主体的に業務に取り組むことができました。常に勉強が不可欠ですが、係員であろうと積極的に仕事ができる職場だと思います。



Private Time

1歳の息子は歩くことが上手になったので、大好きな電車がよく見える公園に遊びに行きます。一緒にすべり台を滑るとケラケラ笑って、とても楽しそうです。いつも10回位は滑るでしょうか。また、大河ドラマが好きで、毎年GWに大河ドラマ緑の地へ旅行して、大河ドラマ館へ立ち寄り、ドラマの歴史観を深めています。

Some One Week

Monday

今年度を実施した採用広報活動の成果を検証して班内の職員と来年度の方針を考えました。



Tuesday

熊本県に出張して、地方自治体や管区機関の担当者との意見交換を行いました。

Wednesday

高校・大学生を対象に九州大学で地域に必要な政策を考えるという体験型のイベントを開催しました。

Thursday

日本各地の高校に国家公務員として働く卒業生を派遣して開催した講演会の活動報告書を作成しました。

Friday

先日の出張に関する精算事務を行い、出張報告書を作成して班内に共有しました。